

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名 江の島保育園
活動日 2025年 10月8・15・22日
クラス名(年齢) ゆず組 (1, 2歳児)
年間テーマ 「感覚」

活動のテーマ「 ふわふわとコロコロ 」

〈テーマの設定理由〉

自由遊びの中で人形に愛着を持ち可愛がる姿や日常の再現がたくさん見られること、道路沿いに窓のあるクラスのため配達に来るトラックやゴミ収集車が日常的によく観察できることで、乗り物への関心がたかいことから、身近な世界について興味関心をさらに深めるためにこのテーマにした

1. 活動スケジュール

- ・10月8日 15日 22日に活動を実施する
- ・人形を触る 抱く 抱きしめる 頬ずりする など全身で感覚し言葉で表現する。
- ・人形の世話を楽しむ姿を見守り共感する。
- ・布を振る 丸める 投げる 包む 身にまとうなど感覚し試す わらべうたに合わせてしぐさをするなど一緒に遊びながら「フワフワしているものに触るとどんな気持ち？」など問いかけ子どもの気づきに共感する。
- ・壁面に設定したたま転がしを使って試す。
- ・子どもが探求している姿を写真におさめる。
- ・月のクラス会議で子どもの遊びの様子や反応、気づきを共有する。
- ・活動内容の成果と評価を写真と共に記録に残す。

2. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・お手玉人形
- ・クマのぬいぐるみ
- ・シフォン布
- ・たま転がし

3. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

- ・子どもが遊具に気づき関心を持ったものを選び手に取ることから始める
- ・布：五感を使い感覚する。室内だけではなくテラスへ持っていき風があるところでの布の動きに注目させる

- くま人形：抱く、寝かせる、食べさせるなど可愛がる
日常の経験を再現する
- お手玉人形：色や名称を言葉にする
好きな動物を選ぶ
抱くなど世話をする
並べる
積み木などを組み合わせ構成遊びへ繋げる
- たま転がし：転がるものと転がらないものを感覚する

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

- シフォン布に気付き「わー きれいね」と好きな色を手取る。選んだ色を大人が言葉で伝える。頭にかぶってみる。首にかける。マントのように体にまとう。頭にかぶった時に「赤になった」等見え方の変化を言葉にしている。
- 大人がわらべうたを歌うと鼓動に合わせて片手で振る、両手でひろげ振る。
- 床に広げその上に立つ「すべるね」と感覚の違いに気付く。
- 遊具を包む。
- テラスでは、風にたなびく様子を見る。手を放し飛ばす。「とんでいった」と後を追う。
- くま人形：「くまちゃんかわいいね」とベッドに寝ているくまに気付き抱き上げる。「きもちいい」とお腹に顔をうずめる。
 - 小脇にかかえ連れて歩く。
 - スリングに入れ一緒にお出かけをする。
 - 「ごはんできたよ」と抱っこをして、また椅子において食べさせるしぐさをする
 - 布を敷き、布団をかけ寝かせ、添い寝をする。
- お手玉人形：好きな動物を選ぶ
 - 1列に並べる。
 - 同じ動物を選ぶ。
 - 輪ビーズを身体の前で、両腕にかけ同じ動物のお手玉人形を2体入れ抱っこ紐のようにして出かける。
 - 積み木の上に1体ずつ並べ、「リンゴですよ」とリンゴを1つずつ前に置き1:1対応で構成していく。
 - 積み木で家をつくりお手玉人形を使い「〇〇ママが帰ってきましたよ」などお話作りを始めた。
- たま転がし：木製ボールを転がし追視する 歓声をあげる
チェーンリングを持ってきて転がしてみる。転がらないので手で滑らせる。
お手玉を持ってきて転がしてみる。上手く転がらず手で動かす。

※写真



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

- クラスにはシフォン布以外にも数種類の布があるが軽さ、透けて見える事、色のきれいさ、丸めやすさ、サイズ感など子どもたちに扱いやすく人気があった。年間を通してよく使っている。
- 園の特徴でもあるわらべうた遊びにも取り入れやすい素材であった。
- くま人形は少し提供するタイミングが遅かったこともあり、世話をすることよりも感覚的に癒しの遊具になっていたことが多かった。年度の初めの春頃に出していきたい。
- お手玉人形は子どもたちが好んで使っているが意外にもブタが1番人気であった。大きさ的にも扱いやすく色々な遊具と組み合わせて使われることが多い。
- 2歳児はお話作りなど人形で表現することもできるようになっていて成長を感じられた。
- たま転がしでは転がるものと転がらないものを子ども自身が遊びながら試し工夫している姿を見ることができた。